2016年1月　第36号

市立室蘭総合病院　広報誌

くじらんネット

病院の理念

おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針

・信頼される医療を持続的に提供します。
・自治体病院としての役割と責任を担います。
・経営の健全化と効率化に努めます。

「B型肝炎の再活性化」をご存知ですか？

市立室蘭総合病院　副院長（消化器内科部長）
金戸（かねと）　宏行（ひろゆき）

Ｂ型肝炎はウイルスによる感染症で、血液や体液を介して感染が成立します。感染経路は主に親から子供への母児感染と性交渉や針の使い回しなどで生じる水平感染に大別されます。母児感染は予防対策で新規発生頻度は激減していますが、青年期に肝炎が発症し無症候性キャリア（体内にウイルスはいるが肝炎が生じていない）や慢性肝炎（肝炎が持続した状態）となります。水平感染は急性Ｂ型肝炎を発症した後、多くは慢性化することなく治癒します（自分で急性肝炎にかかって自然治癒したことに気付かないでいる人もいます）。昔はこれでウイルスが体内より排除され既感染者となり、再度Ｂ型肝炎にはかからないと考えられていました。しかし近年、治癒した患者の体内にウイルスが潜在していることがわかってきました。潜在状況にあるひと（キャリアや既感染者）が癌やリウマチなどを発症し抗癌剤や分子標的薬、ステロイドホルモン剤、免疫抑制剤などによる治療を受けた際に、潜んでいたウイルスによりＢ型肝炎が発症することがあり、それを「Ｂ型肝炎の再活性化」と言っています。再活性化すると通常の急性Ｂ型肝炎に比べて、劇症肝炎という命にかかわる病状になる頻度が高いこともわかってきて、予防策や対応策がガイドライン化される状況になりました。２人に１人が癌になり、３人に１人ががんで亡くなる時代になっています。リウマチも年間１万5000人が新しく発病していると言われています。今後も抗癌剤や分子標的薬、ステロイドホルモン、免疫調節薬などによる治療を受ける機会が増えてくることが想定されます（癌やリウマチ以外の病気で使用されることもあります）。いざ自分がそのような薬を使用する必要が生じたときには、より安全に治療が受けられるように、自分のＢ型肝炎の状態を治療前に必ず検査してもらい、適切な対応をしてもらうようにしてください。

シリーズ 健康講座

第29回

《ペイン外来》

ペインクリニックって何するところ？

ペイン外来　診療部長　今（こん）　久子（ひさこ）

ペインクリニックと聞いても、「一体何を治療する科だろう？」と思われる方がまだまだ多いことと思われます。まして麻酔科の医師がやっていると知ると、何だか恐ろしげな治療をするのではないかと受診する気になれないかも知れません。そのような誤解を解くために、今回はペインクリニックのことを少し紹介させていただきます。

「ペイン」は英語で「痛み」を表します。ペインクリニックは痛みの治療を専門とする科です。日本では麻酔科医が中心となって発展してきました。

「痛み」は本来、体に異常が起きていることを知らせる大切な警告です。

急激に起こった痛みは、例えば暴飲暴食による胃腸の痛み、手術後の痛み、けがをした時の痛みなど、それぞれの専門家により治療され痛みが緩和されます。

一方、原因がなくなったと思われるのに「痛み」がいつまでも残ることがあります。病院で検査しても異常は見つからず、薬をもらっても良くならず、「慢性疼痛」と呼ばれる状態になります。帯状疱疹後の神経痛、肺がんや乳がんの手術後に多い傷の痛み、交通事故の後の頭痛などがこれにあたります。また、初めから明らかな原因がないのに痛みが生じて慢性化することもあります。

「慢性疼痛」は日常生活に影を落とします。「痛み」が続くことで、脳の神経の伝わり方にも変化が起き、通常の痛み止めが効きにくくなります。また、精神的に追い詰められてうつ状態を引き起こしたり、家族関係に影響が出ることもあり、そのような辛い環境の中でますます痛みが取れなくなります。

ペインクリニックは、特にこの慢性疼痛の治療を専門的に行っていて、患者さんとお話をする中で「痛み」がどこから生じているのかを探り、症状を和らげる方法を見つけて行きます。

例えば、肩が痛くなった時は肩関節に問題があるとは限りません。首（頚椎）が悪いために肩が痛いと感じることもありますし、時には心臓に問題があって肩に痛みを生じることもあります。

痛みの原因を正確に判断することは、適切な治療を受けるためにとても大切なことなのです。

ペインクリニックは、治療に関しても専門的に多くの方法を患者さんに提供します。神経ブロック・漢方薬を含む様々な内服薬・点滴などがありますが、患者さんのご希望をお聞きしながら無理せず納得できる治療に努めていきます。

また、当院のペイン外来の特徴は、総合病院であることの長所を生かして他科との連携を重視していることです。患者さんを治療していく中で、例えば整形外科で手術をした方が良いと思われる患者さんは整形外科へ、神経系の精密検査が必要と思われる患者さんは神経内科へ、脳の検査をしたり痛みを取るために硬膜外電極の植え込みが有効なのではと思われる患者さんは脳神経外科へ…など、それぞれ専門の先生達にスムーズに紹介して広い目でより良い医療を目指しています。

皆様の周りに、なかなか良くならない痛みに苦しむ方がいらっしゃいましたら、どうぞご紹介ください。

生理機能検査シリーズNo1. 腹部超音波検査

【部位と目的】

　腹部超音波検査で調べる臓器は、施設により異なりますが、当院では、肝臓・胆嚢・胆管・腎臓・脾臓・膵臓を中心に見ています。泌尿器科からの依頼の場合は腎臓と膀胱を調べます。

　大きく腫れていないか？小さくなっていないか？石やポリープなどがないか？腫瘍がないか？など形態的な異常を調べるのが主な目的です。

【検査】

　胸の下から腰骨位まで肌がでるようにして仰向けに寝ていただき、お腹にゼリーをつけて検査します。検査は１０～１５分程度で痛みはありません。何度も息を吸ったり吐いたりしていただいて綺麗な画像が得られるようにして記録します。

【注意】

　飲食をすると胆嚢が小さくなってしまい、異常を見つけにくくなってしまいます。また、消化管の動きも活発になり見えにくい部分が多くなってしまいます。午前中に検査の方は朝食、午後から検査の方は昼食を食べないようにしてください。

【臓器の働き】

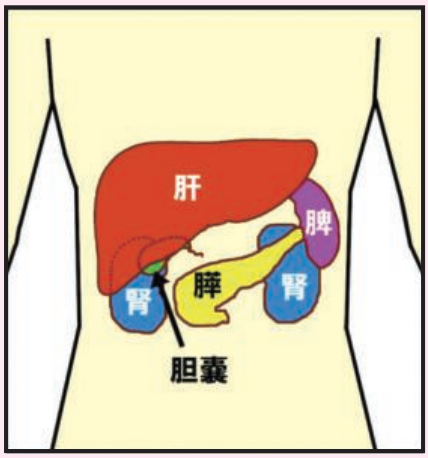
《肝臓》お腹の右上にある痛みを知らない臓器で、胆汁の分泌、血液中の栄養の処理や貯蔵、中毒性物質の解毒・分解・排泄など多くの仕事をしています。

《胆嚢》肝臓の下面にあるナス形の袋で、脂肪の消化吸収を助ける胆汁を蓄えます。

《腎臓》左右の後側にあり、血液中の老廃物をろ過して尿として排泄、血液の濃度や組成を一定に保つ、血圧やカルシウム吸収を調整、赤血球の生成を促すなど多くの仕事をしています。

《脾臓》お腹の左上後側にあり、知名度の低い臓器です。赤血球や血小板を予備として貯え、老化した血球や老廃物の処理、リンパ球を作る仕事をしています。

《膵臓》お腹の中央後側にあり、消化液を分泌し、血糖を下げるホルモンや血糖を上昇させるホルモンを分泌しています。



認定看護師のご紹介

認定看護師とは、認定試験に合格し、ある特定の看護分野において熟練した技術と知識を用いた高い水準の看護を行う看護師です。

看護現場において実践・指導・相談の３つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりと質の向上を図ることに貢献しています。当院では、６分野７名の認定看護師が活動を行っています。今回は、市民の皆様に認定看護師の存在と活動内容を紹介させていただきます。

皮膚排泄ケア認定看護師

西谷　美香・太田 麻美子

キズ・ストーマ（人口肛門・人工ぼうこうなど）・尿や便に関しての悩み・ひふのさまざまなトラブルに関して、より専門的な看護を行います。

病気や年れいなどの原因から考えて、患者さんやご家族を支援することを大切にしています。人に見られたくない・知られたくない部分のケアとなるため、受診される皆さんの思いを考え、一人一人に合った継続できる看護を心がけています。

がん化学療法認定看護師

対馬　理佳

外来化学療法室で、がん治療を受ける患者さんへの抗がん剤投与と看護にあたっています。抗がん剤の副作用と上手に付き合い、自宅で過ごしながら安心・安全に通院治療ができるようにお手伝いしています。その人らしい生活が送れるように、院内職員とともに皆さんを支え、患者さんやそのご家族の心に寄り添った看護を心がけています。何かご心配なことがございましたら、いつでもお声をかけてください。

感染管理認定看護師

荒木　大輔

当院は、病院を利用する皆さんにとって清潔で安心・安全な環境を提供できるように職員が一丸となって様々な活動を行っています。

私は感染防止対策室に所属し、院内の感染対策が適切に行われるよう、多くの勉強会の開催や感染のチームとともに病院内を回り、アドバイスをしています。また、西胆振の医療機関とも連携し活発な情報交換も行っています。

直接患者さんと関わることは少ないですが、陰ながら皆さんのお役に立てるように頑張ります。

認定看護師のご紹介

緩和ケア認定看護師

磯貝　英利子

緩和ケアとは、病を抱える患者さんやご家族の体や気持ちの辛さを和らげ、その人らしい生活を送ることができるよう支えていくケアのことです。がんの治療が出来なくなってから始めるものではありません。がんと診断された時から受けることができます。

当院には緩和ケアを専門としている「緩和ケアチーム」があり、病気に対する不安や困りごとに対応しています。どんな些細なことでも構いませんので遠慮なくご相談ください。あなたやあなたの大切な人にとって、より良い方法がみつかるようお手伝いさせていただきます。

救急看護認定看護師

矢野　明美

救急外来を受診された患者さん、家族の皆さんに対する看護ケアを行っています。不安を抱えて受診されるみなさんの思いを代弁できるように努めています。

その中で高度な救急看護ケアを提供できるような実践やスタッフへの指導を行い、災害や一次救命処置の指導も行っていますので、救急外来に来た際に不安に感じていることがありましたら、声をおかけください。

集中ケア認定看護師

斉藤　るり子

集中治療室（ICU）は４床で、病院全体の中央診療部門として、内科、外科系を問わず重症患者さんに対し集中的に治療を行う部署です。

集中ケア認定看護師の役割は、多様な身体の変化をいち早く評価して合併症の予防を目指し、不安を抱える患者さんご家族に対して精神的サポートを行うことです。また、円滑なチーム医療を行う事で安心して治療を受けていただけるよう支援し、早期回復・早期社会復帰への援助を行います。

ICU看護スタッフは、常に患者さんやご家族の側に寄り添い、回復を共に喜べる存在でありたいと、日々チームが一丸となって最善を尽くしています。

新しい診療科のご紹介～『神経内科』

市立室蘭総合病院　神経内科
（岩手医科大学医学内科学講座　神経内科･老年科分野　講師）
大塚千久美（おおつかちくみ）

神経内科は、主に神経に原因を有する病気を診断し内科的に治療する診療科です。神経は、中枢神経（脳と脊髄）と末梢神経に分けられます。これらの神経が障害されることにより、「手足に力が入らない」、「上手く歩けない、ふらつく」、「めまい」、「しびれ」、「言葉がでにくい、もつれる」、「物忘れ」、「頭痛」など様々な症状が出現します。これら症状がある日突然出現する急性疾患と、ゆっくり出現し徐々にはっきりしてくる慢性疾患があります。急性疾患の代表的なものは、脳に栄養を運ぶ動脈の流れが悪くなり起きる脳梗塞です。慢性疾患の代表的なものに神経変性疾患があります。最も患者さんが多いのがアルツハイマー型認知症、次に多いのがパーキンソン病です。

パーキンソン病は、人口１０万人あたり約１５０人の患者さんがいる頻度の高い病気です。４０歳以下で発症することもありますが、一般的には５０歳以上で発症することから、人口の高齢化に伴い患者さんは増加しています。パーキンソン病の代表的な症状は「手足の振るえ」です。約７割の患者さんが、片方の手または足が振るえることで発症します。この他に、「動作が遅くなる」、「筋肉がこわばる」、「バランスが悪く転びやすくなる」ことが主な運動症状です。歩くときに、最初の一歩が出にくくなることや、歩幅が小さくなり足が上がりにくくなることも特徴です。また、パーキンソン病になると、「意欲がわかない」、「気持ちが落ち込む」、「眠れない」、「便秘になる」などの運動以外の症状もみられます。

パーキンソン病の原因は、脳の中で「ドパミン」という神経の連絡に必要な物質が不足することです。これをお薬で補充することで症状が改善します。現在、パーキンソン病の治療は進歩し、たくさんのお薬が開発されています。また2000年以降は国内でも脳深部刺激療法という外科手術が可能になっています。パーキンソン病は早く診断し治療を受けることが推奨されています。気になる症状があったら、ためらわずに受診してください。

診療開始：平成27年11月　　診療日：毎週木曜日

患者・家族の皆様の権利とお願い

医療は、患者の皆様と医療従事者との相互の信頼と協力とによって実践されます。　両者は、単なる契約関係やパターナリズム（親権主義）にあるのではなく，お互いの信頼感に支えられている「良いパートナーの関係」にあることが最も望ましいと考えております。　この考えのもとに市立室蘭総合病院は、患者の皆様の権利と意思とを尊重して、患者・家族の皆様も一緒に治療に参加できるような最善の医療の提供に努めております。

患者の皆様の権利と責務

皆様の権利

1. ご自身にとっての最善の医療を受けることができます。
2. ご自身の病気の診断・病状・治療方針などについて、分かりやすい言葉や方法での納得できる説明と的確な情報を受けることができます。
3. ご自身（あるいは家族）の意思で治療方法が選択し決定できますし、また他の病院の意見を求めることも、臨床研究中の新しい治療に関する情報の提供を受け、これに参加することもできます。
4. ご自身のプライバシーが守られ、診療明細書の提示や自身の診療記録の開示を求めることも、また知りたくない情報を拒否することもできます。

皆様の責務

5. ご自身の人格・人生観・価値観・宗教観・趣味趣向などは尊重されますが、診療・治療上の必要な指示や助言はお守りください。
6. 通院・入院中は院内規則を守り、迷惑行為を慎んでください。
7. 受けた医療に対しての医療費（自己負担分）は必ずお支払ください。（責務を守って頂けない場合は、当院での医療提供が継続できないこともあります。）

市立室蘭総合病院　広報委員会
〒051-8512
室蘭市山手町3丁目8番1号
事務局総務課
TEL (0143) 25-3111 FAX (0143) 22-6867
http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/